

平成27（2015）年度  
東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻  
修士課程（社会情報学コース・一般選抜）  
入学試験問題  
専 門 科 目

（平成26年8月18日 14：00～16：00）

試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。開始の合図があるまで、下記の注意事項をよく読んでください。

1. これは、社会情報学コース・一般選抜の問題冊子である。
2. 本冊子の本文は8ページである。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあった場合には申し出ること。
3. 解答用紙は3枚ある。問題ごとに解答用紙1枚を使用すること。このほかにメモ用紙が1枚ある。なお、解答用紙のみが採点の対象となる。
4. 解答用紙の上方の欄に、問題の番号（例：「第1問」）、選択記号がある場合にはその記号（例：「第2問A」）及び受験番号を必ず記入すること。問題番号、選択記号及び受験番号を記入していない答案は無効とする。
5. 解答には必ず黒色鉛筆（または黒色シャープペンシル）を使用すること。
6. 解答は日本語によるものとする。
7. 試験開始後は、中途退場を認めない。
8. 本冊子、解答用紙、メモ用紙は持ち帰ってはならない。
9. 次の欄に受験番号と氏名を記入せよ。

受験番号	
氏 名	

## 社会情報学（一般選抜） 第1問

次の英文を読み、以下の問いに日本語で答えなさい。

下記出典の文章を掲載しています。

出典 Susan Sontag (2003) *Regarding the Pain of Others*. New York: Picador.

\* credentials 証明書

\*\* Woolf イギリスの小説家 Virginia Woolf (1882-1941)

\*\*\* sleight of hand 手先の早わざ、マジック

\*\*\*\* testimony 証言

- (1) 下線部(a)について、著者の議論に沿って400字程度で説明しなさい。
- (2) 下線部(b)について、具体的な写真を例にとりあげて、600字程度で説明しなさい。その際、その写真が撮影された状況、撮影者、被写体に言及すること。写真は著名な写真家のものでも、個人的に撮影されたものでもかまわない。

## 社会情報学（一般選抜） 第2問

以下の（A）から（F）までの中から1問を選択し、選択した問題の記号を解答用紙に明記の上、答えなさい。

- （A）日本では、2012年の著作権法改正により、いわゆる「違法ダウンロードの刑事罰化」が行われた。
- （1）上記の刑事罰化に関連する条文の規定内容を説明した上で、なぜこの法改正が必要とされたのかを述べなさい。字数は、500字程度とすること。
- （2）上記の刑事罰化に伴って生じうる問題点について、500字程度で論じなさい。
- （B）東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故のマスメディア報道をめぐっては、これまでに様々な問題が指摘されてきた。これについて以下の問いに答えなさい。
- （1）そうした問題の具体的事例について、300字程度で述べなさい。
- （2）（1）で挙げた問題が生じる理由や背景について、300字程度で述べなさい。
- （3）（1）で挙げた問題の解決策について、400字程度で述べなさい。

【（C）は次頁】

- (C) 以下の文章は、日本において、2013年12月末に制定された特定秘密保護法（特定秘密の保護に関する法律）の制定をめぐって法の制定を支持する憲法学者とそれに疑問を投げかける政治学者との座談会での発言内容である。

長谷部恭男（憲法学者）：世の中にはいろいろな考え方をしている人がいて、しかも何が正しくて何が正しくないか、そう簡単に決着がつかない。多様な考えを持つ人たちが、何が正しいかをめぐって殴り合ったり殺しあったりすることなく、公平に暮らしていける枠組みをつくらなければならない。それが立憲主義の考え方。権力が制限されるのは、みんなを公平に扱う社会の仕組みをつくるためです。しかし世界には今、中国や北朝鮮のように立憲主義の考えをとっていない国がある。私たちは①それらの国々から、憲法の定める自由で民主的な現在の政治体制を守らなければならない。そのために秘密法をつくり、特別に保護されるべき秘密が外に漏れないようにする必要があるのです。

杉田敦（政治学者）：日本では、権力は危ない、とにかく制限すべきだという考え方が強い。秘密法への批判の多くも、②そういう権力観がベースになっていたと思います。しかし、権力の危険性はふまえても、同時に権力には、生活保障や安全保障など、広い意味でのセキュリティを確保する③積極的な側面もあることは確かです。とはいえ、どうでしょう。板前さんが包丁を持っていても心配ありませんが、こわもての人が持っていると恐ろしいですね。

（『朝日新聞』2014年1月19日）

- (1) ②の権力観と③の積極的側面との関係について、自由主義(liberalism)の観点から400字程度で論じなさい。
- (2) 下線部①の議論をどのように考えるのか、600字程度で論じなさい。

【(D) は次頁】

(D) シュムペーターは、『経済発展の理論』の中で、イノベーションに関連して次に掲げる5つの新結合を示している。情報通信技術がGPT (General Purpose Technologies) として、どのようなイノベーションを引き起こしているかについて、5つの新結合すべてを対象に、GPT との関連を明確にしつつ具体的に説明しなさい。

なお、解答に当たっては、5つの新結合について、該当する新結合の番号(①～⑤)を明記した上で、各々200字程度で説明しなさい。

(5つの新結合)

- ①新しい財貨の生産
- ②新しい生産方法(商品の新しい取扱を含む)の導入
- ③新しい販路の開拓
- ④原料又は半製品の新しい供給源の獲得
- ⑤新しい組織の実現

【(E) は次頁】

(E) G. Gerbner らは 1976 年の論文<sup>※1</sup>で、「ほとんどの人は信頼できますか？」という質問に対し、テレビ短時間視聴者（1日平均2時間未満）の48%、長時間視聴者（1日平均4時間超）の65%が「慎重すぎるに越したことはない (Can't be too careful)」と答え、また、「ある1週間に、あなたが何らかの形で暴力に巻き込まれる可能性はどの程度ありますか。10回に1回の割合でしょうか、100回に1回の割合でしょうか？」という質問に対し、「10回に1回」を選んだ人が、短時間視聴者で39%、長時間視聴者で52%であったことを記述している。

(1) Gerbner らの解釈によれば、この結果はどのようなことを示していると考えられるか、500字程度で説明しなさい。その際、以下の言葉をすべて使い、解答中の各語句の初出の際に、必ず下線を引くこと。

カルティベーション      シンボリックの世界      文化指標 テレビ的回答 (television answer)
--

(2) テレビの暴力シーンと青少年の攻撃性や犯罪との関係に関する調査研究は多数あるが、近年、暴力的なテレビゲームと青少年の攻撃性や犯罪との関係に関する研究も増加している。あなたは、青少年の攻撃性や犯罪との関連で、テレビとテレビゲームのどちらの影響が大きいと考えるか。また、そう考える理由についても5つ程度挙げなさい(あわせて500字程度)。

<sup>※1</sup> George Gerbner and Larry Gross (1976) Living With Television: The Violence Profile, *Journal of Communication*, Spring 1976, 172-199.

【(F) は次頁】

(F) 科学社会学とは、「

」(『社会学小辞典(新版増補版)』  
有斐閣 2005 年) とされる。これに関連して以下の問いに答えなさい。

※実際の試験問題では、「 」内に上記出典の文章を掲載しています。

- (1) 科学をめぐる社会的議論について、以下の用語や人名のうち少なくとも 3 つ用いて、300 字程度で説明しなさい。解答に際しては、用いた用語・人名に必ず下線を引くこと。

マートン 知識社会学 リスク社会 法則定立的科学 個性記述的科学 実証主義論争
--

- (2) カール・ポパーは反証可能性の有無によって、科学と非科学との差異を定式化した。ポパーのような科学哲学的議論と、科学に関する社会的議論との異同について 300 字程度で説明しなさい。
- (3) 近年マスメディアなどでさまざまな科学に関する事象、事件などが報道されている。マスメディアの科学報道と、上記 (1) (2) で問われたような科学社会的議論との異同を、具体的な事例を挙げながら 400 字程度で説明しなさい。

### 社会情報学（一般選抜） 第3問

以下の(a)から(f)までの6つの群から一つの群のみを選択し、その群に列記されている5つのカナ記号（(ア)～(オ)）のうち3つを選択して、選択した用語の意味を、それぞれ300字程度で説明しなさい。その際、必ず選択したアルファベット記号及びカナ記号を解答用紙に明記すること（これらのアルファベット記号及びカナ記号が記載されていない解答は無効とする）。

(a)

- (ア) 労働基本権
- (イ) リベンジ・ポルノ
- (ウ) プライバシー・バイ・デザイン
- (エ) 連邦通信委員会 (FCC)
- (オ) 裁判外紛争解決手続

(b)

- (ア) ウォッチドッグ (watchdog)
- (イ) タブロイド化 (tabloidization)
- (ウ) オンライン・ジャーナリズム (online journalism)
- (エ) テレビの系列・ネットワーク (television network)
- (オ) 集団的過熱取材

(c)

- (ア) デュヴェルジェ (Maurice Duverger) の法則
- (イ) 一党優位政党システム (predominant party system)
- (ウ) 認識共同体 (epistemic community)
- (エ) 熟議民主主義 (deliberative democracy)
- (オ) 集団安全保障 (collective security)

【(d)、(e)及び(f)は次頁】



(d)

- (ア) ソロー・パラドックス
- (イ) コースの定理
- (ウ) 財政に関するクラウドイング・アウト
- (エ) コンテストブル市場
- (オ) クラウド・ソーシング (crowd sourcing)

(e)

- (ア) シェリフ (M. Sherif) の泥棒洞窟実験
- (イ) フット・イン・ザ・ドア・テクニック
- (ウ) リスキーシフト
- (エ) ピグマリオン効果
- (オ) カイ自乗検定

(f)

- (ア) 社会関係資本
- (イ) 会話分析
- (ウ) 理想的発話状況
- (エ) 集合的記憶
- (オ) 層化抽出法